

経営比較分析表／団体全体（令和4年度決算）

茨城県

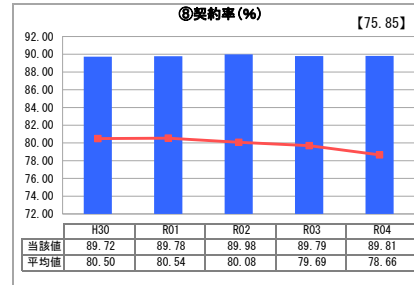
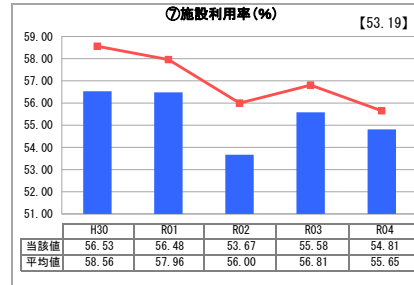
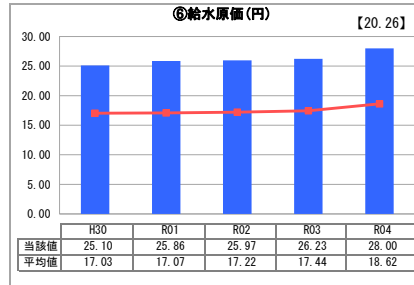
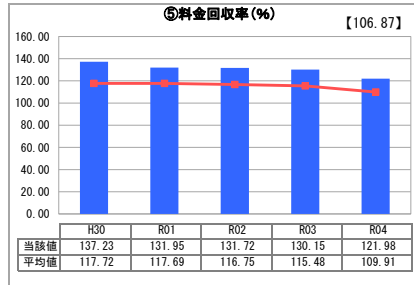
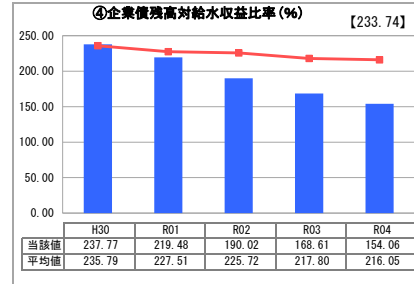
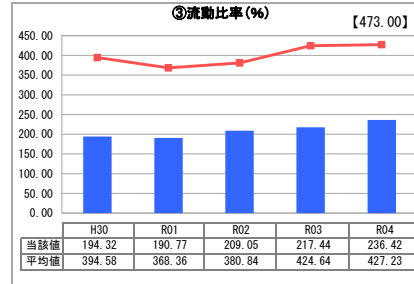
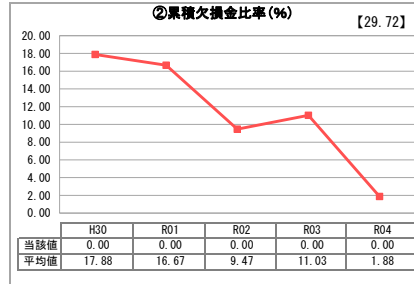
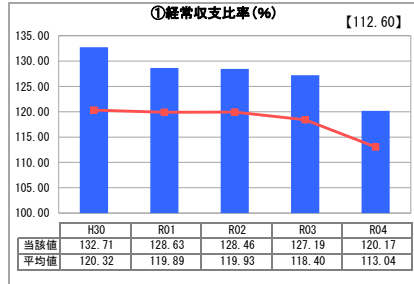
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	1,132,680	大規模	5	620.802
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	80.2	240	1,017,301	自治体職員	

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

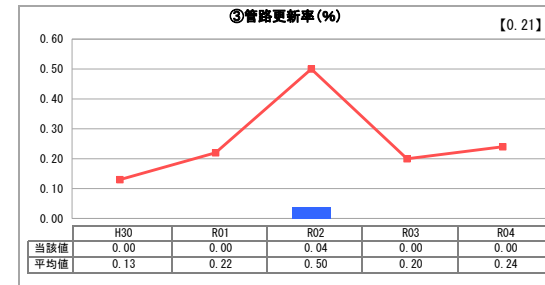
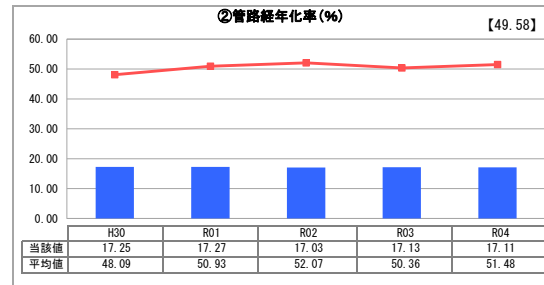
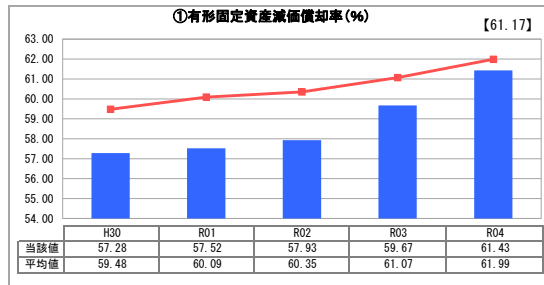
<健全性>
 「①経常収支比率」は、過去5年間とも100%を上回り、経常収益で経常費用を賚ることができており、かつ、累積欠損金も生じていないことから、健全経営である。
 「③流動比率」は、200%を上回っており、短期債務に対する支払能力は健全である。
 「④企業債残高対給水収益比率」は、過去5年間とも企業債の着実な償還により企業債残高が減少している。
 「⑤料金回収率」は、過去5年間とも100%を上回り、給水に係る費用を給水収益で賚ることができており、類似団体平均を上回って推移しているが、これは将来の投資財源の確保も踏まえた料金設定によるものである。
 「⑥給水原価」は、類似団体平均を上回って推移しているが、これは企業立地が広範囲にわたり投資効率が悪いこと及び開発費用のかかる水源施設を要したことにより資本費（減価償却費及び企業債利息）が高くなっていることが要因である。

<効率性>
 「⑦施設利用率」は、類似団体平均を下回って推移しているが、一方、「⑧契約率」は、類似団体平均を上回り、高い数値を推移しており、適正な施設規模である。なお、施設利用率と契約率との乖離は、契約水量に基づく責任水量制により料金を回収しているためである。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は、類似団体平均と同等規模で推移しており、概ね平均的な老朽化の状況である。主要施設別では、建物が52.11%、構築物が55.14%、機械及び装置が79.87%となっている。
 管路は、法定耐用年数に達していないものが多く、「②管路経年率」、「③管路更新率」ともに類似団体平均に比べて低い数値を推移しているが、今後は、経営戦略に位置づける更新周期をふまえ、耐震化と併せた計画的な更新を進めていく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

各経営指標の状況から良好な経営状況といえる。しかし、今後、水道施設の老朽化による更新費用の増加や災害等に備えた危機管理対策など、経営環境は厳しさを増して行く。
 このため、平成30年3月に改定した「企業局経営戦略」に基づき、計画的な事業運営、効率的な管理運営、財政基盤の強化、需要に応じた事業展開など、計画的かつ効率的な経営を推進していく。

※「企業局経営戦略」掲載URL
<https://www.kigyou.pref.ibaraki.jp/page/page00009.html>